

## ソーシャルメディアと外国語学習・教育

### —フランス語の新しい学びのために—

Médias sociaux et enseignement/apprentissage des langues

— pour une nouvelle forme de l'apprentissage du français—

小松 祐子

KOMATSU Sachiko

Université de Tsukuba

komatsu.sachiko.gt@u.tsukuba.ac.jp

インターネットが一般に登場してすでに 15 年が経過した。フランス語教育の分野でもこれまで多くの Web リソースが作成され、インターネットを活用したさまざまな学習・教育の実践報告が行われてきた。今日ほとんどの学生や教員が授業内・外にインターネットを便利に活用している。しかし一口にインターネットと言っても、初期の Web と Web 2.0 以降とではその機能や社会的影響は明らかに変化している。とりわけ最近とみに世間の注目を集めるのが Social media としてのインターネットであるが、社会的メディアとしてのインターネットは外国語教育の分野にもインパクトを与えているだろうか。

本稿では、ソーシャルメディアとしてのインターネットがどのように外国語学習・教育に活かされているかを、具体例をもとに検討する。Web 2.0 の特徴であるユーザー主導によるコンテンツ創出や社会的インタラクションを重視するあり方は、私たちの学習・教育実践を変え、新しい学びを生み出す可能性を持つだろうか。

#### 1. Social media とは何か

まず Social media という語の意味を確認しておこう。2006 年後半から登場したこのインターネット用語は、Web 上で提供されるサービスのうち、ユーザーの積極的な参加によって成り立ち、ユーザー間のコミュニケーションをサービスの主要価値として提供するサービスの総称として用いられ、Web の進化した形態(Web2.0)のおもな特徴の一つとされている。具体的には、SNS (ソーシャル・ネットワーク・サービス)、Twitter、動画共有サイト、3D 仮想空間などがこれに相当する。「データ」「情報」に重きをおくのではなく、「人」およびその間の「社会的インタラクション」が主役となることが特徴である。Facebook, Twitter を通じて急速に展開したジャスミン革命、Yahoo 知恵袋を使った京大入試不正事件など、2011 年に入りその影響力を見せつける出来事が相次いでいる。

#### 2. Social media の外国語学習・教育への活用

本稿では、SNS (とくに Facebook)、外国語学習用 SNS、Twitter、3D 仮想空間

### 2.1. SNS の外国語学習・教育への活用

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）とは、社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスのことであり、人と人とのつながりを支援するコミュニティ型の会員制サービスを指す。具体的には、世界最大規模の Facebook、それに次ぐ MySpace、日本で最大の会員数を持つ Mixi、モバイル向けの Gree、モバイルゲームなどがある。

このうち Facebook について見てみよう。Facebook (<http://ja-jp.facebook.com/>) は Web 上で知り合いを探し交流することを目的として 2004 年から米国で開始されたサービスである。実名登録を原則とし、13 歳以上であれば誰でも無料で参加でき、2011 年現在ユーザー数 5 億人を超える世界最大の SNS となっている。日本語版は 2008 年に公開され、日本国内の会員は約百万人と言われる。ちなみに日本最大の SNS である Mixi（登録者数 2000 万人）は、日本国内での人気は高いが、利用は日本在住者に限られる（日本の携帯電話メールアドレスが必要）ため、海外のスマートフォンとの交流には利用できない。

Facebook の外国語学習への活用としては、学習言語での交流、つまり共通の話題などを手掛かりに知り合いを作り、言語実践を行うことが考えられる。しかし Facebook は本来すでに知っている者同士の交流を目的としたコミュニティであり、外部者が新たな知り合いを、とりわけ外国語で作ることは容易ではない。

Facebook をフランス語教育に活用した実践報告例として、USING FACEBOOK FOR LANGUAGE LEARNING (<http://iltl.wordpress.com/2010/11/11/using-facebook-for-language-learning/>)がある。これはイギリスで実際に行われた FLE 授業活動で、その内容は、授業内に学生に偽のアカウントで Facebook を作成させ、クラスメート同士で互いの Facebook を訪問しコメントを残し合うというものである。しかしながら、Facebook の掲げる実名登録制に反する利用についての疑問や、クラス内のインターアクションにとどまる活動のために地球規模のメディアを使用する意味が不明であることなどを指摘することができる。

### 2.2. 語学学習用 SNS

SNS のなかには語学学習用として開発提供されているものがあり、外国語学習者にとってきわめて利用価値の高い学習環境となっている。例として Lang-8、Livemocha、Shared Talk の 3 件を紹介する。

まず Lang-8 (<http://lang-8.com/>) を見てみよう。2007 年 8 月からランゲート株式会社提供している語学学習用の無料 SNS で、200 カ国以上からのアクセスがあり、80 言語以上でのやりとりが行われていると言う。ユーザー同士が母語を教え合うオンライン作文相互添削型 SNS である。つまり、サイト上にフランス語で作文を書き込むとネイティブの参加者が添削してくれる、また自分も日本語学習者の作文を添削してあげる、という交換によって成り立っている。

このような学習支援 SNS を利用する長所としては、以下を挙げることができる。

- 学習言語でのアウトプットの機会が得られる
- 非同期のテキストコミュニケーションなので、ゆっくり文章を作成することができる

## Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

---

できる。

- 添削を見直すことにより言語要素が体得できるほか、ネイティブとのやりとりにより文化的な学びも得られる。
- 実際のコミュニケーションというオーセンティシティーが得られる。
- 添削され自分も添削することにより、社会的存在感が増す。
- 純粋な語学学習のほかにコミュニティとしても楽しむことができる。海外に友人ができることが学習モチベーションの向上につながる可能性もある。

しかし利用にあたっては、学習者の意欲や問題意識のありようによって学習効果が異なってくることに注意が必要である。継続的利用により学習の効果が見込まれることは言うまでもない。

Lang-8 は学校教育にも取り入れられ、宿題として使われているケースがある（「今日の宿題は Lang-8 で日記を書くこと」、「Lang-8 で添削すること」など）。実際に使用してみると、ネイティブのフランコフォンが文法的に誤った添削をしたり、文化的な相互不理解の起こる可能性があり、学習者が独習で使用するだけでなく、教育者の指導・解説のもとに利用することによって、さらに学習の有効性が増すものと考えられる。

Lang-8 同様にユーザー同士の学び合いを基盤としたオンライン語学学習コミュニティに Livemocha と Shared Talk がある。

Livemocha (<http://www.livemocha.com/>) は、ピアソンズエデュケーション社が提供する世界最大のオンライン語学学習コミュニティである。米 TIME 誌による 2010 年の「50 Best Websites 2010」に選ばれた。2011 年 2 月時点の会員数は 850 万人を超え、35 言語でオンライン言語コースを提供している。無料コースと有料コースがあり、コース学習、ライティング練習、スピーキング練習などから構成される。コースはレベル別に設定されており、1 回のレッスンに要する時間は 10 分程度と手軽に学ぶことができる。なかでもライティングやスピーキングの課題はサイト上で提出するとネイティブの他の参加者が添削をしてくれるというシステムである。

ロゼッタストーン社が提供する Shared Talk (<http://www.sharedtalk.com/>) は外国人とのチャットによる学習機会を提供する無料の語学学習コミュニティサイトである。音声チャットとテキストチャットが利用できる。

これらの語学学習用 SNS と従来型の language exchange とを比較してみよう。従来型の交換学習（メール交換やテレビ会議）が特定パートナーとの 1 対 1 の関係によって成り立っていたのに対し、SNS では 1 対 N（不特定多数）の関係を基盤とすることが根本的な違いである。1 対 1 の関係ではスケジュール調整をはじめ、互いの関心や相性により左右され関係を長続きさせることは必ずしも容易ではない。一方、SNS では、コミュニティ内でそのときに添削できる人が対応するというシステムであるため、常に相手が見つかり、複数の相手に添削してもらい結果を比較することもできる。と同時に気に入った相手とは個別の交流に発展することも可能である。

### 2.3. Twitter の語学学習への活用

「ツイート（つぶやき）」と呼ばれる 140 文字以内の短文を投稿し、閲覧できる

## **Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011**

Twitter (<http://twitter.com/>) は、「簡易投稿サイト」などとも呼ばれ、「フォロー」する/されることにより他の参加者とのあいだにつながりを生むサービスである。2006年7月に Obvious 社（現 Twitter 社）が開始して以来急速な発展を遂げ、2011年3月16日現在、新規アカウント数は1日に46万件、1日平均1億4000万回のツイートが発信されている（Twitter.comによる5周年公式データ）。

この Twitter を学習者の実践の場として活用する、つまり学習者がフランス語でのつぶやきを実践することには、以下のような利点が考えられる。

- アウトプット力を高めることができる。
- 140文字しか書けないのでシンプルに気軽に書くことができる。
- 全世界の人と交流することができる。
- 他の人のツイートをフォローすることでインプット量が増える。
- 多様な表現に触れることができる。

一方、欠点として、即時性が高いためじっくりと学習した人には不向きであること、言語の質に不安があること、ネイティブから継続的にフォローされることが難しいこと、などを挙げることもできる。

すでに英語学習での Twitter 実践例は多く、『世界とつながる Twitter 英語学習法』（本間正人著）、『Twitter 英語術』（晴山陽一/クリストファー・ベルトン著）、『Twitter で英語をつぶやいてみる』（石原真弓著）などの参考文献も存在する。

### **2.4. Second Life の語学学習の場としての利用**

Second Life (<http://secondlife.com/?lang=ja-JP>) とは、2003年より Linden Lab 社が提供しているメタバースと呼ばれる3D仮想世界である。自分の分身（アバター）を作り、仮想世界を探訪し人々との交流を楽しむことができる。ベーシックアカウント（無料）とプレミアムアカウント（有料）の2種類があり、利用者数は約2000万人と言われる。Second Life(以後 SL)上には企業や政府機関などが次々に進出しさまざまな活動を繰り広げており、2007年フランス大統領選挙では SL 上での左右陣営の選挙活動がエスカレートし話題になった。SL 上のコンテンツはユーザー主導で提供され、制作物の著作権が認められている。また SL 上で用いられる仮想通貨は現実通貨に換金できるため商業活動も多く行われている。SL 上のユーザー間のコミュニケーション手段としては、チャット、インスタント・メッセージ、ボイスチャット、ジェスチャーがある。

SL を学習・教育のためのツールとして利用する例が増えており、ハーバード大学、オクスフォード大学など多くの大学や企業が教育・研修用に使っているほか、最近ではブリティッシュカウンシル、セルバンテス学院も参入し注目を浴びている。仮想空間を用いた語学教育に関する学会も開かれているという<sup>1</sup>。日本ではたとえばアルク社が SL 上に海外留学の情報センターを設立し、無料英会話レッスンを提供している ([http://www.alc.co.jp/press/press/prs\\_071016.htm](http://www.alc.co.jp/press/press/prs_071016.htm))。SL を活用した英語学習については参考書も出版されている（『セカンドライフの英会話 愉しみながらもう一度始める！』、石津ジュディス/石津奈々著、ベレ出版）。

---

<sup>1</sup> SLanguages : The Conference for Language Education in Virtual Worlds 第2回大会は2010年10月15～16日、SL内 EduNation islands にて開催された。

## **Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011**

学校教育の分野では、神田外語学院が 2010 年度より SL を利用した英語必修科目を開講し、必修授業としては日本初の導入となった (<http://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/news/report284.html>)。教室授業と仮想空間授業との連携、日本人講師とネイティブ講師との連携、学びと遊びの連携の 3 つをキーワードにした授業運営モデルを目指していると言う。SL の活用には、1) 言語を使う場の創出、2) コンテキストベースの学び、3) アバターを利用した「精神的マスク」の効果、の 3 つの利点があることが指摘されている。

実際に SL を語学教育に活用する方法としては、パブリックスペースの活用、プライベートスペースの活用、および両者のハイブリッド活用の 3 種が考えられる。教師が学習者を SL 上のパブリックスペースに連れて行き、タスクを実行させることで、コンテキストベースの学習が可能となる (たとえば SL 上の観光地でガイドをさせる等の活動)。一方、学校または教師が独自のスペースをもうけ、学習者のニーズやレベルにあったコンテンツや学習活動を準備することもできる。

### **3. ソーシャルメディアがもたらす新たな学び**

以上ソーシャルメディアの外国語学習・教育への活用について具体例を見てきたが、ソーシャルメディアが近年重視される次のような学習の実現を可能にすることに気づかされる<sup>2</sup>。

- a) 学習者中心の学習: ソーシャルメディアは別名 CGM (Consumer Generated Media) と呼ばれ、ユーザーによるコンテンツ作成を特徴とする。外国語学習についても学習者中心の活動が行われる、
- b) 行動中心の学習: ソーシャルメディアではタスクベース、プロブレムベース、コンテキストベースの学習が行われる、
- c) 協調学習: ソーシャルメディアでは CMC (Computer-Mediated Communication) をベースにした学習が行われる、
- d) 社会構成主義の学習: ヴィゴツキーが言うように、人は他者と働きかけあうなかで自らの考えや知識を構成していく。ソーシャルメディアにおける学習活動は社会構成主義の学びを実現する。

これらの学びをもたらすソーシャルメディアは、外国語の学習・教育の分野で今後ますます活用されることが期待されるが、そのための課題として、目標設定、継続性、コミュニティへの所属感、学習・認知プロセス支援などをどうするか、フォーマルな教育システムにいかに取り入れるか、学習者の発言や行為をどのようにコントロールするか、評価をどうするか、といった数々の具体的な項目を丁寧に検討していく必要があるだろう。

---

<sup>2</sup> Françoise Demaizière は近年の学びのパラダイム転換として以下を挙げている。  
- 行動主義から社会構成主義の学びへ (du behaviorisme au socioconstructivisme)、  
- 個人学習から協同学習へ (de l'individualisation de l'enseignement à la collaboration)、  
- リソースからシナリオへ (des ressources aux scenarios)。

Françoise Demaizière (2009), « De l'EAO au web 2.0 - Diversité des usages des TIC pour l'apprentissage des langues ? », [http://www.didatic.net/article.php3?id\\_article=234](http://www.didatic.net/article.php3?id_article=234)